

生徒の抜け漏れをフォローアップ配信で積み上げ！ - 生徒個々の実力に合わせた、確実なステップアップを叶える -

群馬県立 高崎北高等学校

テーマ

既習範囲の抜け漏れ定着

目的

個別最適化した学習の実施

高崎北高等学校に赴任後、校内へのスタディサプリ普及に取り組み英語教員の佐藤洋子先生。自分の学習スタイルを模索したり、学習の習慣が確立していない生徒など、様々な生徒がいる中で、どのようにスタディサプリを活用しているのかを伺いました。

スタディサプリ導入以前

赴任してきて感じたのはICTの導入があまり進んでいないということ。前任校で動画学習のメリットを感じていたこともあり、せっかくのスタディサプリがほぼ活用されていないのはもったいないと感じました。

今は大学の授業や社会人の研修なども動画の時代です。本校でも生徒一人一台タブレットを持ちICT化には抵抗がない生徒がほとんどです。教育現場も動画と共存していくのが大きな流れではないかと思えます。ペーパーとICTのいいところ取りをして、生徒それぞれの学力や学習スタイルに対応していけたらベストだと思います。

この取り組みをはじめたきっかけ

スタディサプリは生徒の参考書代わりというか、自宅学習のサポートツールとして役立てられると思っています。動画ならベッドの上や電車の中で気軽にすることが出来ます。自分のペースで止めた戻ったり、繰り返し見たり。スタディサプリの動画学習には基礎も上級編もあり、重要なことがコンパクトにまとまっているので、英語が苦手な生徒だけでなく得意な生徒にもとても効果があると思います。夏休みの課題として配信に踏み切りましたが、最初は生徒が自ら選び、自分のペースで視聴する習慣をつけてもらったための課題というスタンスでスタートさせました。

実際の取り組み

何度か授業中にスタディサプリを使ったこともあります。教師の説明を聞く受け身の授業ではなく、「ここは難しいところだから、一度わかりやすい動画を見てみましょう。スタディサプリを立ち上げて、自分なりにスキップや倍速再生をしても構わないよ」と言ったら生徒はサツと開いて一所懸命に視聴し始めました。

個々に動画で学ぶ時間を設けるとそれぞれのペースで理解することが出来ます。また授業内容にもメリハリが付き、学習意欲が活性化するようにも見受けられました。

スタディサプリには痒い所に手が届くような動画があるので、授業中に手が回らないところにも活用する価値はあると思います。夏休み後もテスト結果や授業中の反応によって生徒が苦手な箇所、理解不足なところ、あるいは重要な単元を重点的に週末課題として配信しています。週末課題の正答率が60%以下の生徒には、やり直し用のフォローアップ配信も行います。

中には一定の課題提出に至らない生徒もいるため、提出を成績に加味し、未提出者には個別に声を掛けるといった工夫もすると、スタディサプリの課題提出率は80〜90%を担保することができています。

生徒の変化感

夏休みは5回に分けて課題を配信し、その後も随時配信しています。こなしている生徒は、やっていて良かったというメリットを感じているんだと思います。1学期や夏休みに課題を出してフォローアップ配信も行うと2学期の実力テストでは問題を解けるようになってきている生徒も多いです。動画を使って自宅学習をする習慣が学力に繋がることを実感しています。

フォローアップ配信

WEBテストを配信

確認テストや単元テストを配信

正答率を指定

理解度を確認し正答率を指定

フォローアップ配信

つまづきに合わせた最適な講座を配信

正答率 配信対象 配信講座

75%	配信なし
50%	配信あり
100%	配信なし
25%	配信あり

配信対象の正答率を指定

群馬県立高崎北高等学校 TAKASAKI KITA HIGH SCHOOL



【学校情報】

全日制普通科1学年在籍240名。1979年に開校し、2003年に群馬県初の「進学重視型単位制高校」としてスタート。2021年度は、国立大学に80名合格。多くの生徒が4年制大学進学を目指し学業に励む。